

助 - 24 だけ

N

だけ

基 本

例 文

- ① すみませんが、100円^{えん}だけ^か貸^かしてくだ
さい。
- ② 10分^{ぶん}だけ^{やす}休^{やす}みましょう。
- ③ 林^{はやし}さん^きだけ^き来^きませんでした。
- ④ ジュース^かだけ^か買^かいました。
- ⑤ 3年^{ねんせい}生^{せい}だけ^しが^{あい}試^し合^あに^で出^でました。
- ⑥ ひら^{べんきょう}が^{べんきょう}な^{べんきょう}だけ^{べんきょう}を^{べんきょう}勉^{べんきょう}強^{べんきょう}し^{べんきょう}ま^{べんきょう}す。
- ⑦ 辞^じ書^{しょ}だけ^{つか}は^{つか}使^{つか}わ^{つか}な^{つか}い^{つか}で^{つか}く^{つか}だ^{つか}さ^{つか}い。

解 説

- A. 「だけ」は、対象、程度、範囲、数量などを示すNの後について、これらを限定し、強調する。
(例文①～⑦)
- B. 文末は否定も肯定もある。(例文③④)
- C. 助詞「が」「を」「は」といっしょに使うときはこれらの前につく。「が」「を」は省略すること
ができる。(例文⑤⑥⑦)

先生へ

「だけ」は助詞。

「だけ」を助詞「に」「で」「と」「へ」といっしょに使うとき助詞の前に置いても後に置いても
よい。

- 例 1 先生は日本語で^{はな}だけ^{はな}話^{はな}します。
先生は日本語^{はな}だけ^{はな}で^{はな}話^{はな}します。
- 2 これはあの店^{みせ}に^{みせ}だけ^{みせ}あり^{みせ}ま^{みせ}す。
これはあの店^{みせ}だ^{みせ}け^{みせ}に^{みせ}あり^{みせ}ま^{みせ}す。

【関連項目】

文-43 しか...否定

【「れんしゅう編」の練習】

8-5 アルバイト

